

青森県立青森南高等学校

住所 青森市大字大野字笹崎六の一
生徒数 男子六二八名 女子四四七名
部員数 男子二六名 女子二名
顧問 太田 常人・山本 洋一
コーチ 若井 弘司

本校は昭和五十年四月、「自主・協和・創造」の三綱領を掲げて、青森市南部の田園地帯に新設された、全日制、普通科二十四学級の高校である。地域の要請に応えるべき、所謂「新学級」として出発し、生徒の学力向上をめざし、その校風、伝統を築き上げてきた。従って、創設当時空手道部は存在せず、現空手道部は昭和五十九年、空手を愛する一生徒・落合秀士君（現在航空自衛隊、三沢基地第三航空団勤務）が本校に八回生として入学した年から二年間にわたる学校への働きかけによって同好会として発足した。彼は学校の信頼を得るため、自ら生徒会長となり、会則を学校に提示し、仲間を募り、三年生六名、二年生七名、一年生七名計二十名での発足であった。また、彼はその年（五十九年）六月の第三十七回青森県高等学校総合体育大会空手道競技において、男子個人型の部・第四位入賞を果たし、第六回東北高等学校空手道選手権大会に出場している。発足の年から東北大会出場を果たし、平成元年「部」に昇格した我が部は、現在まで数々の実績を上げている。

第四十一回県高等学校総合体育大会（昭和六十三年度）

男子団体組手第二位
第十回東北高等学校空手道選手権大会（昭和六十三年度）

男子団体組手第二位
第四十二回県高等学校総合体育大会（平成元年度）

男子団体組手第三位
平成三年度県高体連空手道秋季新人大会

男子団体型第二位、同組手第三位
全国高等学校総合体育大会（インターハイ）出場者
寺田拓司（昭和六十三年・組手）

今 満月（平成三年・型）

東北高等学校空手道選手権大会出場者

落合秀士（昭和五十九年・型）、寺田拓司（昭和六十三年・組手）、西山道衛（平成二年・型、平成三年・型）

今 満月（平成三年・組手、型）

東北高等学校空手道選抜大会出場者

今 満月（平成二年度、組手、型）、西山道衛（平成三年度）
東北総合体育大会（ミニ国体）出場者

工藤貴彦（第十五回 昭和六十三年）

今 満月（第十八回 平成三年）

以上のような実績を上げ、来年度、部創設十周年を迎えるが、現在（平成四年四月）部員三年生七名、一年生十一名、一年生八名、女子二年生一名、マネージャー三年女子一名の計二十八名が、前コーチ・故関聰氏揮毫による「忍」のもと、「しなやかに強く」をモットウに、また空手道の攻撃性は、自らの身を守るためのも

のであったという見地に立って、「善攻者、敵不知其所守」(『孫子』虚実篇)を掲げて、何事にも積極的に取り組み、自主性を身に付けるとともに、「善守者、敵不其所攻。微呼微呼、至於無形、神呼神呼、至於無聲。」(前掲書)と、道の微妙さを、求めつつ、自らの人間形成に精進努力しながら、インターハイ出場めざして日々練習に励んでいる。



昭和六十年三月から平成四年三月まで、空手道部卒業生四十二名と、部員数は決して多くはないが、一人一人それぞれ個性があり、ユニークな存在であった彼らによって、強調性のある、明るい部の伝統が築かれてきたのは論を待たない。さらに部の現在の隆盛は、創設以来、桜庭貢氏(昭和五十九年、六十年)、赤石兼清氏(昭和六十一年)関聰氏(昭和六十二年、六十三年)、

若井弘司氏(平成元年〜現在)と、良き指導者に恵まれたことと、さらに青森市空手協会の全面的なバックアップの賜物である。部創設十年を期にさらに発展するため、市協会をはじめ、空手道界の人々の一層の御指導をお願いするとともに、これを機に、この

場を借りて、現在までの御指導、御援助に感謝の意を表したい。

第四十五回青森県高等学校総合体育大会を三日後に控え、「善攻者、敵不知其所守」と、積極的な攻めの中にも「忍」にある、「忍」の中にも、積極的な攻めのある試合、日常の練習の成果を十二分に発揮し、悔いのない試合をしてくれることを念願しつつ。。。

平成四年六月三日

顧問 山本 洋一

